

# 美という名のエネルギー

vol.2

栗原直弘

(古美術商)

## 第一章 エネルギーと波長 ②

### 「選ぶ」ということ

私達は日々さまざまな場面でさまざまな物事を選んでいきます。たとえそれが、普段使いのマグ・カップであろうと、数ある物の中からその形やデザインを気に入り、何かしらのインスピレーションを感じたからこそ、今皆様のお手元にあるのでしょう。

ここで言う「選ぶ」とは、人間の生命や生存には関係なく、言ってみれば「どちらでも

よい物や事」を選ぶということであり、そういう意味でいえば美術品や古美術も、マグ・カップの延長線上にあるに過ぎません。また、「何かを飲む」という機能だけならば、百円ショップのマグ・カップも高名な陶芸家のマグ・カップも同じであり、釉薬の発色や筆致にこだわる必要はないでしょう。

しかし、たとえそれが路傍の石であろうと、人は太古の昔から、より美しく輝く石を選んできたのではないのでしょうか。そして、このような無駄な選択もまた、動物には無い感覚

であり、唯一人間だけに与えられた楽しみでもありません。

## 「選択」と「エネルギー」

人生における「選ぶ」という行為が、ただ「生存」に必要な「選択」だけだったならば、人の歴史の何とつまらなかつたことでしょう。私は、むしろ生き死にに関係ないこのような「選択」こそが「人が生きる」という意味ではないかと考えています。

では、私達が何かを「選ぶ」とはどういうことなのか、その根本には何があるのでしょうか。それをただの「好み」や「縁」の一言で片付けてしまうのは簡単ですが、私はその根本に、それぞれを創造した「エネルギー」の違いがあると考えています。

そして、この論考でいう「エネルギー」とは、

東洋でいう「気」のようなもので、宇宙を司る「創造のエネルギー」に始まり、大自然の水や石、土や金属などが内包する「物質のエネルギー」、微生物から人間に至るまでの「生体のエネルギー」、さらに、それらが融合した「エネルギー」があり、私はこれを「存在のエネルギー」と呼んでいます。

## 内包する「エネルギー」

すべての物質は、原子や分子などが結びついた個数と形の違いでしかなく、私はその違いを、それぞれを結びつけている「エネルギー」の違いであると理解しています。そして、さまざまな存在もまた、それぞれの素材を結び付けている「存在のエネルギー」の違いであると考えているのです。

例えば、高名な陶芸家と私が、同じ土を使っ

て作陶しても、私には陶芸家のような作品が  
できないように、その陶芸家の経験と意識に  
よって成された物だけに陶芸家のエネルギー  
が宿るのであり、その作品と私の作ったカワ  
ラケとの違いは、陶芸家と私の人生経験を含  
めた「エネルギー」の違いでしょう。

また作陶には、「火」というエネルギーが  
介在し、その「火」の管理や焼成後の選別に  
関わった人々のエネルギーを内包して一つの  
作品となり、さらに美術品や古美術という「箱  
書」や「伝来」など、制作後に関わった人々  
のエネルギーを融合すると考えています。

### 物質化した「エネルギー」

私は、美術品や古美術に限らず、目の前の  
パソコンなども、それぞれの発想や企画をし  
た人のエネルギーに始まり、その機能やデザ

インを生み出した人、さまざまな素材が持つ  
エネルギーを元にして、それぞれを制作した  
人のエネルギーが物質化したものであるとい  
う説を唱えています。

そして物質化したエネルギーは、販売や宣  
伝などの流通に関わったすべての人達のエネ  
ルギーを吸収し、また、長く使い込むこと  
によって、所有者やそれらを伝えてきた人々の  
エネルギーも内包すると考えているのです。

このように、すべての存在は、さまざまな  
エネルギーが融合したものであり、それぞれ  
に籠る「エネルギー」の在り方や意味の違い  
が、一般消費財などと美術品や古美術との違  
いとなると理解しています。また、それらが  
人の手によって造られた物か、機械によって  
量産された物かによっても、そのエネルギー  
には大きな違いがあるでしょう。  
(次号へ)